

## はじめに

2001年(平成13年)1月、即ち21世紀の最初の年に海上交通局は海事局に生まれ変わります。経済のグローバル化の浸透、経済的世界的な大競争の進展など、この動かし難い世界の潮流は20世紀末の海上交通行政にも否応なく影響を与えてきているところですが、21世紀にはこれらの潮流より一層強まることとなるでしょう。このような中、多様化する国民のニーズ・価値観に的確に答えていくためには、従来どおりの縦割りではなく、横断的・総合的に海上交通行政を進めていくことが必要とされています。今回の海事局への再編は、こうした養成に応えたものです。

20世紀最後の今回の海運白書では、第2部第1章において、これまでの海上交通行政を白書等を基に振り返るとともに、21世紀に向けての行政視点とこれにアプローチする際の考え方を提唱しています。まだまだ抽象的な範囲を出るものではありませんが、私どもと一緒に皆様にも考えて頂ければということで記述いたしました。また、第2章以下では、これまでの外航、内航旅客、港湾運送といった輸送モードごとではなく、国際競争力の強化、利用者利便の向上、環境といった行政の課題ごとに政策をまとめ、編集しました。

今回の白書は、世紀の節目における海上交通行政の姿を切り取ったものです。本書を読んで、21世紀の海上交通行政のあり方について忌憚のないご意見を頂ければ幸いです。

海上交通局長